

資料-1 麻疹 (EIA法)

(1) 検体数

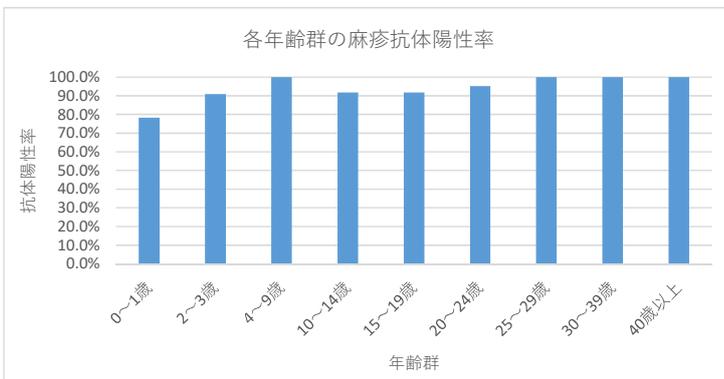
合計265検体 (血清) について、酵素抗体法 (Enzyme Immunoassay : EIA法) で抗体価を測定した。
各年齢群の指定検体数は22であったが、15~19歳および20~24歳の年齢群で指定数に達しなかった。

	年齢群 (歳)									計
	0~1歳	2~3歳	4~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40歳以上	
検体数	23	22	37	24	12	21	22	33	71	265

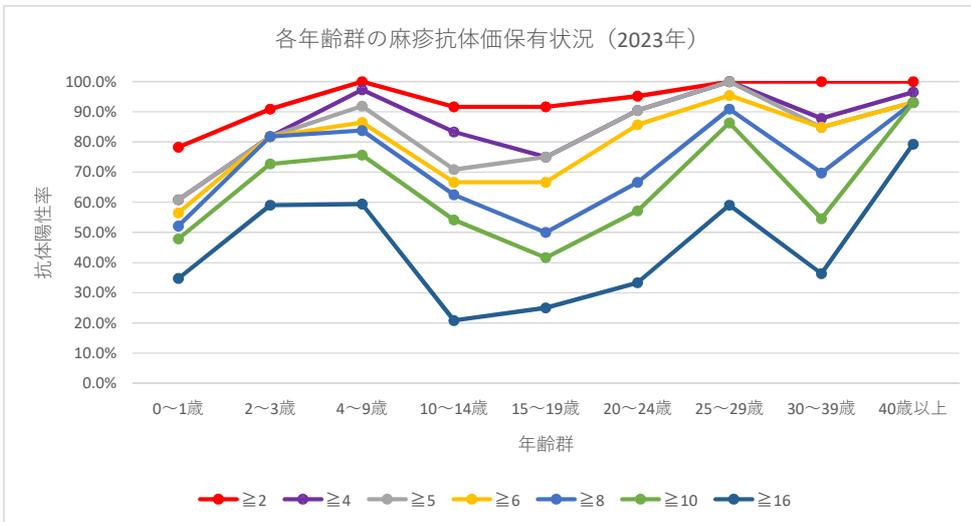
(2) EIA法による各年齢群の麻疹に対する抗体保有率

- ・調査対象者全体の抗体陽性(EIA抗体価 2.0以上)率は95.8%であった。
- ・年齢群別では0~1歳、2~3歳、10~14歳、15~19歳の年齢群で抗体陽性率が95%を下回った。

	年齢群 (歳)									全体
	0~1歳	2~3歳	4~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40歳以上	
陽性(≧2.0)	78.3%	90.9%	100.0%	91.7%	91.7%	95.2%	100.0%	100.0%	100.0%	95.8%
陰性(<2.0)	21.7%	9.1%	0.0%	8.3%	8.3%	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%



	年齢群 (歳)									全体
	0~1歳	2~3歳	4~9歳	10~14歳	15~19歳	20~24歳	25~29歳	30~39歳	40歳以上	
≧2	78.3%	90.9%	100.0%	91.7%	91.7%	95.2%	100.0%	100.0%	100.0%	95.8%
≧4	60.9%	81.8%	97.3%	83.3%	75.0%	90.5%	100.0%	87.9%	96.6%	88.7%
≧5	60.9%	81.8%	91.9%	70.8%	75.0%	90.5%	100.0%	84.8%	93.1%	86.0%
≧6	56.5%	81.8%	86.5%	66.7%	66.7%	85.7%	95.5%	84.8%	93.1%	83.4%
≧8	52.2%	81.8%	83.8%	62.5%	50.0%	66.7%	90.9%	69.7%	93.1%	77.4%
≧10	47.8%	72.7%	75.7%	54.2%	41.7%	57.1%	86.4%	54.5%	93.1%	70.6%
≧16	34.8%	59.1%	59.5%	20.8%	25.0%	33.3%	59.1%	36.4%	79.3%	52.1%



- ・麻疹に対する確実な免疫を得るためには、2回の予防接種を受けることが重要である。
- 麻疹の罹患歴や予防接種歴が明らかでない場合には予防接種を受けること、また接種歴が1回の場合や流行国に渡航する場合等は2回目の予防接種を検討する必要がある。

資料-2 インフルエンザ（HI法）

(1) 検体数

合計265検体（血清）について、赤血球凝集抑制試験法（HI法）で抗体価を測定した。

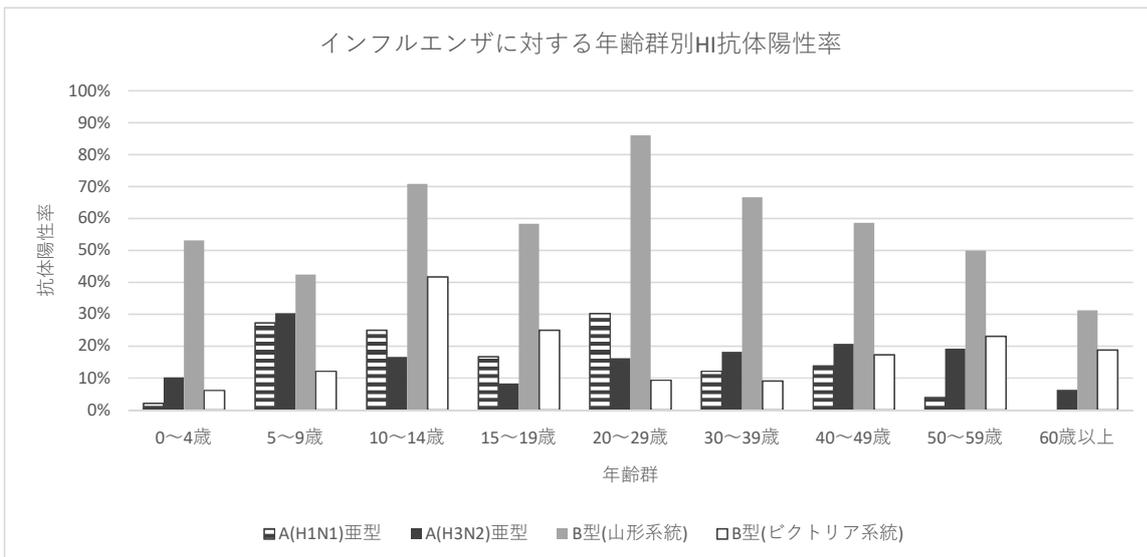
各年齢群の指定検体数は22であったが、15～19歳および60歳以上の年齢群で指定数に達しなかった。

	年齢群（歳）									計
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
検体数	49	33	24	12	43	33	29	26	16	265

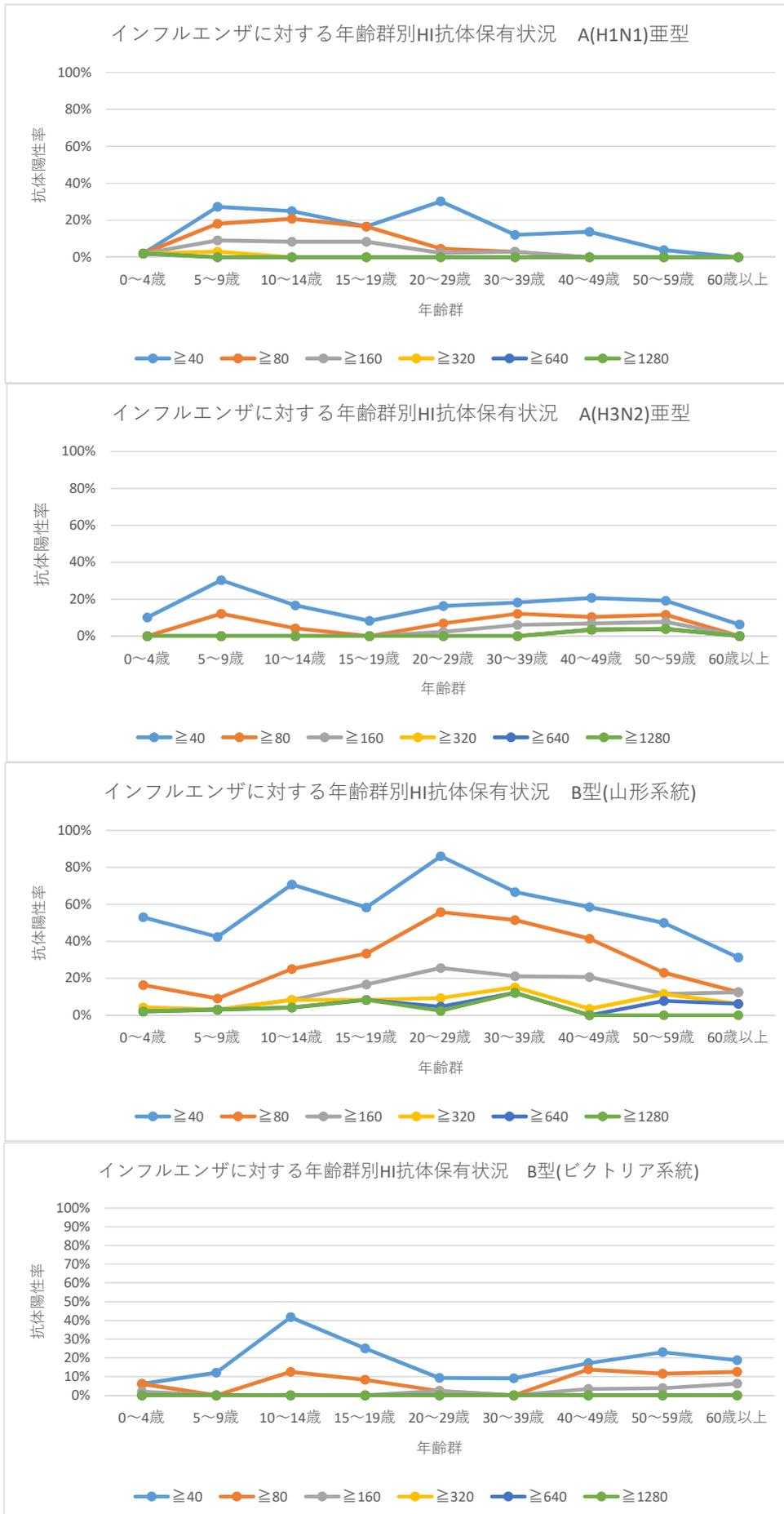
(2) HI法による各年齢群のインフルエンザに対する抗体陽性率

- ・ 調査対象者全体の抗体陽性(HI抗体価 40以上)率は、A(H1N1)亜型が15.1%、A(H3N2)亜型が17.0%、B型(山形系統)が59.6%、B型(ビクトリア系統)が15.5%であった。

	年齢群（歳）									全体
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
A(H1N1)亜型	2.0%	27.3%	25.0%	16.7%	30.2%	12.1%	13.8%	3.8%	0.0%	15.1%
A(H3N2)亜型	10.2%	30.3%	16.7%	8.3%	16.3%	18.2%	20.7%	19.2%	6.3%	17.0%
B型(山形系統)	53.1%	42.4%	70.8%	58.3%	86.0%	66.7%	58.6%	50.0%	31.3%	59.6%
B型(ビクトリア系統)	6.1%	12.1%	41.7%	25.0%	9.3%	9.1%	17.2%	23.1%	18.8%	15.5%



(3) HI法による各年齢群のインフルエンザに対する抗体保有状況



資料-3 新型コロナウイルス感染症（中和法）

(1) 検体数

合計265検体（血清）について、中和法で抗体価を測定した。

各年齢群の指定検体数は22であったが、15～19歳および60歳以上の年齢群で指定数に達しなかった。

	年齢群（歳）									計
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
検体数	49	33	24	12	43	33	29	26	16	265

(2) 中和法による各年齢群の新型コロナウイルスに対する抗体陽性率

調査対象者全体の抗体陽性(中和抗体価 5以上)率は77.0%であった。

	年齢群（歳）									全体
	0～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	
陽性(≧5)	38.8%	54.5%	66.7%	83.3%	97.7%	100.0%	93.1%	96.2%	87.5%	77.0%
陰性(<5)	61.2%	45.5%	33.3%	16.7%	2.3%	0.0%	6.9%	3.8%	12.5%	23.0%

